



目次	
退任・退職の挨拶	・・・ 1
企業技術者活用プログラムの進展	・・・ 8
地域連携・産学連携の記録	・・・ 10
共同研究、研究費等受け入れ状況	・・・ 13

「副センター長退任にあたって」

地域共同テクノセンター副センター長（情報工学科） 和崎 浩幸

昨年度、テクノセンターニュースの編集を担当して原稿依頼などを行ってから1年。今度は自分にその順番が巡ってきました。任期をふりかえってみると、1年目はセンター長が黒田先生で副センター長が飯田先生と大久保先生、2年目はセンター長が石出先生で副センター長が大久保先生と吉井先生で、一緒に仕事をさせて頂きました。また、事務方として研究協力・地域連携系の松本係長と鈴木さんにも大変お世話になりました。仕事をする上ではチームワークが重要で、お互いの連携が大事ですが、よくよく考えてみると助けることよりも助けてもらうことの方が多かったように思います。この場を借りて、あらためてお礼申し上げます。



さて、2年前を思い起こしてみると、テクノの副センター長について打診があったとき、引き受けてやっていたのか…というのが率直な気持ちでした。それまで、正直、地域連携については、教育・研究・その他の次にある程度の意識でしたし、学外との接点に立って営業的な役割をすることにも不安がありました。それでも、自信がないところは副センター長3名体制を頼りに、新たな視野が開けるかもしれないと思い、不安を抱えつつも引き受けたことを覚えています。

私の任期中に新しく始まったこととしては、企業技術者等活用プログラムがあります。平成23年度に計画が認められたものの、予算がつく時期が遅れたこともあり、かなり窮屈な時間の中で大久保先生が担当として奮闘され、皆様のご協力を得て実現に至りました。平成24年度は学外実習に土俵を変えて実施され、今後は専攻科のPBLへと形を変えていくことが予定されています。

また、自分の仕事の一つとして、科研費申請についての現状を調査・分析し、そこから申請数向上と採択数向上の方策を探ることがありました。結果的に、時間的なゆとりがないことが最も大きな問題としての共通項で、授業の準備・研究・クラブ活動・委員会活動等の校務など、多くの業務が積み重なって時間的・精神的な余裕がなくなっている様子が見えたように思います。これに対する他高専の視察から得たヒントとしては、それぞれの地域性もありますが、退職された先生方や地

元に就職した卒業生、技術者となった卒業生の母校に対する思いをうまく取り込んで、結果的に教育・研究に力をもらっている様子がありました。本校でも、そのような取り組みが今後、ますます重要となるように思います。

次に、地域連携の一つの形として、高専を知ってもらい活用してもらうことがあります。テクノ関連としては、技術振興交流会、木更津サイエンススクエア、各種出前授業、公開講座など、現在では数多くのもがあります。技術振興交流会の役員会などで外部の方からよく聞くこととしては、「高専はしきいが高い」ということがあります。木更津高専があることは知っていても、何をしているのか、どんな学校なのかはよく知らない、ということが根本のようです。学校の宣伝は入試活動とも密接な関係がありますが、学校を外部に開く機会を作って見て知ってもらうことが重要と感じました。

…以上、思いつくままに、まとまりのない文章を綴ってしまいました。最後に、今一度、職務を遂行するにあたり、お世話になった皆様にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

「 退任の挨拶 」

地域共同テクノセンター副センター長（環境都市工学科） 大久保努

平成 23 年度からの 2 年間、副センター長を務めさせて頂きました。本校に着任して 2 年目に副センター長の話を受け、恥ずかしながらそれまでテクノセンターに足を踏み入れた事が無く、表向きは飄々と快諾しましたが、内心は大変な不安を感じたことを思い出します。簡単ではありますが、それからの 2 年を振り返ってみます。



まずは企業技術者等活用プログラムについて書かせて頂きます。本プログラムは当時の黒田センター長から副センター長に対し、誰か窓口役をと投げかけられ、プログラムの内容を把握しないまま手を挙げたのが私でした。窓口役を 2 年間担当しましたが、私の段取りが悪く、学生を含め関係する皆様に一方的なお願いばかりとなり反省しきりです。詳しいプログラム内容については、別頁にて報告しますが、参加した学生、そして受入れ企業先からも好評を頂いており、ある程度の成功を収めたと自負しております。技術振興交流会の援助のもと開催している本校サイエンススクエアでは、毎年 500 名を超える小学生・保護者を集め盛況に開催されました。電子機器や IT 技術が発達し、ものづくりに対する子どもたちの反応は如何程かと思いましたが、いざ作業風景を覗いてみると目を輝かせながら、作品作りに熱中している子供達の姿が印象的でした。世間では「理科離れ」が進んでいると言われておりますが、一概には言えないようです。また昨年末には、他高専の外部資金獲得状況や COOP 教育の実践の様子を視察するため、松本係長と共に高知高専と阿南高専を視察させて頂きました。他高専の担当者と、それぞれの高専の内情を打ち明けつつ意見交換できた良い機会でした。

この 2 年、テクノセンターの運営に携わり、また他高専を視察し感じたのが、本校におけるテクノセンターの役割の明確化や戦略的な展開の必要性です。平成 12 年度にテクノセンターが設立さ

れ、既に 12 年が経過しました。片手間で活動を広げるよりも、まずは信頼関係を築き本校らしい揺るぎないテーマを推進する。そのためには、私自身にも足りない点ではありますが、地道に足を運ぶ（営業）努力がまだまだ必要であると感じております。

最後になりますが、石出センター長、黒田前センター長、飯田、和崎、吉井副センター長の方々と総務課研究協力・地域連携系の皆様、OB 教員の皆様、技術振興交流会の皆様、運営するにあたり御協力いただいた皆様に感謝申し上げます。今後、より一層地域共同テクノセンターが地域発展に寄与できるよう願うとともに、私の方も地域ニーズのある研究テーマを模索していきたいと思っております。以上、簡単ではありますが、最後の挨拶とさせていただきます。

「 退職に際しての思い出 」

基礎学系 鎌田 勝

私は、これまで 29 年間、基礎学系の数学教員として木更津高専に勤務して来ましたが、この 3 月をもって退職することになりました。しかし、4 月から引き続き 1 年間、フルタイム再雇用の身分で勤務する予定ですので、現在あまり退職ということを実感できないでいます。

以下では、テクノセンターと私の接点をいくつか取り上げて、書かせて頂きたいと思っております。



○東葛テクノプラザの技術相談員

私はかつて一度、柏にある東葛テクノプラザに技術相談員として一日滞在したことがあります。その際、職員の方が建物の中を案内して下さいましたが、企業に貸し出しているプラザ内の研究室や、大学等が開設している窓口を見学して、改めて、大学等のシーズと企業のニーズを会わせることや技術相談の意味を理解しました。あいにくとその日は技術相談はありませんでしたが、私にとっては貴重な体験となりました。

○公開講座

数学科として公開講座を行う場合、一般に、数学では良い（つまり集客力のある）テーマを設定することが難しく、数学科では、これまでいろいろとテーマを変えたり受講者の範囲を絞ったりと工夫をして講座を開講して来ましたが、しかし、初めの頃は申込者がゼロという状態が続きました。最近になってようやく、多少の参加者があるようになり、私はその初期にほんの少しだけかかわったことがあります。参加者が少しずつでもあるようになって来たのは、数学科の中堅や若手の教員の努力によるものです。ここに記させて頂きたいと思っております。

○テクノセンターニュース

私はかつてテクノセンターニュース第 6 号（平成 17 年 3 月 7 日発行）¹⁾ の研究者紹介で、「日の当たらない解析学」（非整数階微積分学）に日を当てる」という題名で記事を書かせて頂いたことがあります。その最後に「その後、非整数階微積分学の工学や物理学への応用について文献を調べてみると、流体力学、粘弾性現象、緩和現象、分散現象、確率過程、カオス力学系などに対して、様々な応用の試みがあることがわかりました。整数でない何か半端な指数で時間（空間）発展

するような物理工学的現象があれば、非整数階微積分方程式を用いて現象を記述できる可能性があります。これらの現象への応用等についてはこれから調べて行きたいと思っています。」と書きました。しかし、私の怠惰のためか、その後特に進展がなく、少し残念に思っています。

○テクノセンター以前

最後にエピソードをひとつ。テクノセンターができるかなり前のことだったと記憶していますが、あるとき、(当時の)庶務課から電話があり、地域の人で数学について質問があるという人が来校されている、とのことでした。早速、私の教員室に来て頂き、お会いしたところ、その方は高専の近隣の工場で、何かの製品を作っている方でした。質問の内容は、製品を切削して行くときの、切削面の形状についてのものでした。最初質問の内容を理解するのに時間がかかりましたが、最後に、こういうことではないでしょうか、と私の考えをお伝えしたところ、その方は多分納得されたので、帰って行かれました。ささやかな私の地域貢献となった出来事でした。

最後になりましたが、長い間本当にありがとうございました。

1) <http://www.kisarazu.ac.jp/techno/houkoku/center-news06.pdf>

「 退任の挨拶 」

電気電子工学科 石井孝一

昭和46年(1971年)に、木更津工業高等専門学校に採用されてから40年以上が経過しました。皆様のご支援があり、体が丈夫であることから今日まで仕事が出来ました。おかげをもちまして平成25年3月で定年退職となります。私と地域共同テクノセンターと関わりは、テクノセンターの建設が決まった時から始まりました。施設整備専門委員会の委員として設計図面を見ることになり関連する担当の仕事をしてきましたが、事情があってエレベーターが設置されないこととなり、このことが大きな支障となりました。立ち上げ時に装置搬入でまず支障になり、訪問される学外の研究者にも持ち込む装置などの搬入で不便をかけたこともあり、退官された大藤先生が、木更津市から委託を受けて「介護予防教室」を実施していて、急な階段しかない状態で2階まで往復するお年寄りが大変で危なっかしい光景も見ました。テクノセンターにエレベーターが無いのは、建設当時からかかわっている者として心残りの事項です。テクノセンター開所までは、電気電子工学科の委員として関連する研究室の電源設備と実験設備および室内レイアウト等を担当しました。このことに関しては他高専の見学と、研究で何度も訪問した東葛テクノプラザの設備を使用した経験が大いに役立ち、最新のミリ波ベクトルネットワークアナライザを要する、第2ラボの超高周波測定室(現共同測定室)は共同利用の研究室として使い勝手の良い室に仕上がったと思います。このとき導入されたミリ波ベクトルネットワークアナライザは、日本国内にわずか17台しか導入されていない最新機器であり、大学においては旧帝大の東北大学、東京大学、京都大学等の数校と東京工業大学に導入されている程度でした。木更津高専にすごい装置があるということで、企業も注目と考えていましたが高専の知名度とアピール力の差もあり、企業の使用は全くありませんでした。今では、通信関連企業の開発はかなり活発ですが12年前は大



企業の研究所クラスの技術であったということです。高専の地域共同テクノセンターの装置としては先を走りすぎているようです。この当時は国立天文台と電波天文学の分野でミリ波さらに周波数の高いサブミリ波の世界で共同研究を行っていましたから、地域企業に対してのイメージが充分でなかったからだと思います。それでも国内でトップクラスの設備装置は、経済産業省産業技術総合研究所にも当時導入されていなかった設備でありますから、超伝導素子を用いたミキサ開発の共同研究を産総研と行うことができました。千葉大学とも、ミリ波を用いた雲レーダーの開発に使用されました。装置導入から6年間はトップクラスのデータが得られる装置として存在していました。現在もこれに変わる装置は学内にはなく研究に使用されています。しかし、4年前にメーカーの修理対応がなくなり、今はメーカーによる校正を行い、性能を維持して共同利用を続けている状況です。現在の最新装置の性能は総合的に2桁良くなっているのが事実です。設備の更新をして、一番のデータを提供できる共同利用設備を、技術相談ができる学内の研究者と共に体制を作るべきと考えます。装置だけあっても利用者はいません。これからは、学会等での研究をアピールすることで関連する企業に知ってもらうことが重要なことであると思います。私とテクノセンターの12年間は、テクノセンターの立ち上げ、最新機種導入、共同研究、維持管理、技術相談等で、結構充実していたと思っています。これだけ多くの良い機会に会えたことに感謝いたします。私は、定年退職で職場を離れますが、学校全体が活発な技術相談の場になることを期待します。

「 地域と高専の相互発展を願う 」

電子制御工学科 橘川五郎

木更津高専に14年間在職して定年退職を迎えました。これまで日常業務に追われ、また自身の研究テーマから技術振興交流会やテクノフォーラムにはあまり貢献できず申し訳ない気持ちです。14年のうちはじめの4年は木更津に単身赴任で住み、その後の10年は県外の「終のすみか」と決めた所からアクアラインバス通勤をやってきました。この通勤は景色が良く、座れて眠れることで以前の会社勤めの期間を含め最も快適な通勤でした。おそらく木更津側から通勤で首都圏に通う皆さんも快適でしょう。時々、強風やトンネル内事故で通行止めがありました但那度は鉄道事故に比べずっと少ないと思います。県外から千葉県側に通勤し給与をもらうことに、多少の後ろめたさを感じ、できるだけ研究費や生活費を地元で使おうとささやかな努力をしてきました。高専勤務の期間のこの地域の変化を見ると、アクアラインの通行料値下げやバス路線拡大で都心との行き来は格段に便利になりました。しかし首都圏の他の地域と比べ街が遠心的に発展し、特に木更津駅周辺の空洞化が進んだ印象です。たまに朝、駅を使うと他の駅に比べ学生が多くサラリーマンの姿が少ないです。新しい商業施設が郊外にできると代わりに中心部の商業施設が閉じてしまいました。やはり住宅が増えるだけでなく企業や商店がはやらないと地域は元気になりません。その意味で、雇用を生み出す企業が地域に展開してくれること、企業にとり立地する魅力がこの地にあることが重要となります。温暖な気候と交通の便に恵まれ、製造物の上流（素材）から下流（組立て品）への展開でも便利です。以前、専攻科長をやっていたと



き、木更津高専の卒業生の就職先に地元を選ぶことの手助けをできないか、他の教員と協力し2つの試みをおこないました。1つ目は地元企業の活動紹介（技術振興交流会会員企業主体のリレー講演会実施、これはその後学生とOB教員との地元企業訪問活動に発展）です。すぐに就職には結びつかなくとも、ゆくゆくは学生や採用担当教員の役に立つことを願っています。2つ目は地元進出企業からの求人開拓です。木更津市の担当部署の方から、かずさアカデミアパークに新規に立地するいくつかの企業名を聞いて、その会社の人事部門に高専生の採用をお願いした結果、求人や採用に結びついたものがありました。今後も地元就職したいと考える学生は少なからずいます。彼らは地域や高専の発展にとっても宝でその就職機会を大切に育てていきたいです。

これからの地域の発展のため私が思うことをいくつか書きますと、少し値段が高くても地元の商店で購入しましょう。街の施設や公共交通を利用し育てましょう。駅周辺に人が集まる機会を増やすべきです。病院や市役所窓口を駅周辺に設けそこに集まり、そこで食事や商品購入で金を落とせるような構造にしましょう。それらが将来自分の生活に跳ね返ってきます。

高専には引き続き再雇用で最長2年間パート勤務を続けられることを有り難く思います。そのことを含め、まだ元気で働けそうなのは年金を給料の一部だと考え、役に立てることを見つけ働きたいと思います。

「 地域貢献の歩み 」

教育研究支援センター 白井 淳治

平成10年技術教育支援センターが発足し、「公開講座等学外者を対象とした技術教育の支援に関すること」が業務の中に明示されました。それまで行っていなかった公開講座やセミナー開催について検討することとなり、平成14年には中学生へ体験学習「吊り橋を架けよう」、「ネームプレートを作ろう」を技術組織として初めて実施いたしました。平成16年に独法化されてからは公開講座や出前授業、テレワークセミナーなど主に小中学生を対象に実施しており、平成17年から平成24年までの8年間には、支援センター主催で毎年5ないしは6の公開講座を実施しています。中でも初心者向けのパソコン講座は毎年人気が高く、応募者は毎年募集人数を超え、平均年齢も65歳前後で最高齢は70歳後半のときもありました。また、年賀状作成やデジカメ講座、ブログ入門など、講座については時流を踏まえて開催してきました。今まで開催した主な講座は表1の通りです。



公開講座をはじめ出前授業などの開催は、技術職員にとっても少なからぬ良い影響もありました。それは普段学生に接することと違い基礎知識の少ない人に接することで、教授法やコミュニケーション能力も培われてきたと思います。地域貢献を行うことで技術職員も受講者から多くのことを学ばせて頂いたと思っています。また、公開講座やセミナーなどの事業を通して、技術職員の力量や組織力を窺い知ることができ、センターの運営に力強い思いでした。

表1 教育研究支援センター主催事業

パソコン関連	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいパソコンセミナー –初心者のためのパソコン教室– ・パソコンで年賀状を作ろう –初心者のためのパソコン教室– ・写真入りの年賀状を作ろう –初心者のためのパソコン教室– ・初心者のためのデジカメ教室 –写真の撮り方と印刷– ・初心者のためのデジカメ教室 –撮影の基本とパソコンを使った写真の楽しみ方– ・パソコンでプレート彫刻–オリジナルキーホルダー作り– ・ブログ入門–パソコンで日記をつけよう–
車の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「機械が苦手」という方のためのクルマ講座 ・こんなに簡単車の基本「大きな安全は小さな安心から」 ・楽しいクルマ講座「簡単なトラブル対策と便利グッズ」
自転車整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車のお手入れ ・自転車のお手入れ –親子で体験してみませんか–
工作	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳造でメダルを作ろう ・小型彫刻機で作るネームタグ ・サンドブラストアートを楽しもう ・磁石とコイルを使って音を聞いてみよう ・木更津高専夏休み子ども工作教室（4教室）

最近では入学試験を受けに来た生徒から、小学生のころに本校で開催した公開講座や出前授業などから高専を受験した、あるいは、学科を選んで受験したという声を聴くことがあり、嬉しいことの一つとなっています。子供たちが科学に興味を持ち、体験することで未来を創造し本校を受験することで、かたちにするための一助となればと思います。

地域貢献への積極的な姿勢は、今後もますます重要になると思われませんが、支援センターの日常業務も年を追うごとに増加しています。平成24年10月からは業務内容を整理し、負担を軽減できるよう運営体制を6グループから3グループへと再編いたしました。地域貢献につきましても効率の良い無理のない実施となるよう願っています。また、各講座の開催につきましては、学科をはじめ教職員の皆様のご助力で実施できましたことを心より感謝いたします。41年間どうもありがとうございました。

企業技術者等活用プログラムの進展

地域共同テクノセンター副センター長（環境都市工学科） 大久保努

企業技術者等活用プログラムは、地域連携や地域協働を強化した地域活性化支援に加えて、地域に求められる実践的な技術者教育に焦点を当てた COOP 教育を目指し行なっています。平成 20 年度から 3 年間は、OB 教員による近隣地域企業等への訪問および研究ニーズ・シーズマッチング活動を実施し、平成 23 年度からは、本科低学年向けとして社会キャリア教育の実施（地域社会のシーズ発掘）、本科高学年及び専攻科においては実践キャリア教育（地域企業訪問とシーズ集の発行、企業ニーズの問題解決）を実施しております。実践キャリア教育については、本校の教育・研究や地域企業などの実情に詳しく、経験が豊富な教職員 OB にコーディネーターを委嘱（平成 23 年度 6 名、平成 24 年度 4 名に委嘱）し、さらに、メディア関係などの産業界において、取材、インタビューや記事執筆技術の経験が豊富な人材に教育コーディネーターを委嘱し、地域のニーズやシーズを有効活用し、学生のレベルに応じたキャリアアップや COOP 教育を推進しています。

昨年度は、本科第 4 学年の「課題研究」と専攻科第 1 学年の「特別実験」や「特別演習 I」を対象としたキャリア教育を実践し、その報告を「千葉 匠の力」と題した冊子体にまとめました。今年度は、新たな試みとして、本科第 4 学年の「学外実習」及び専攻科第 1 学年の「インターンシップ」の担当者と OB コーディネーターが連携した PBL 教育としての COOP 教育を実施しました。7 月 10 日には教育コーディネーターとして日刊工業新聞社千葉支局長の神阪拓氏を招き、「取材のイロハ」と題した事前講演会を実施しました（写真 1）。取材活動のプロである神阪氏より、取材時の注意点や取材内容からの記事へのまとめ方など丁寧な説明がなされ、学生からも盛んに質疑が挙げられたのが印象的でした。企業側に対しては、事前に本プログラムへの協力意思を確認し、了解を得た 27 企業 1 機関において取材活動を実施しました。取材を経験した学生からは、企業の魅力を再認識し就職・進学活動に活かせるとの声も聞かれ、また企業側からも産業の振興・活性化を支援する機関として高専への期待が伺えました。今年度の活動報告については、昨年度と同様に冊子体として関係者皆様への配布を予定し、活動報告の一部は HP での公開も予定しています。来年度は、専攻科第 1 学年の「問題解決技法」において、企業との協働教育による実践的な問題解決型教育を実施する予定です。中長期的な PDCA 活動の継続により、共同研究や大型プロジェクトへの発展を期待します。

本プログラムの外部発信としては、8 月 20 日に京都国際会館で開催された第 10 回全国高専テクノフォーラム「高専制度創設 50 周年記念高専における産学官連携の現状と今後の進展-成功事例にみる地域社会貢献-」に参加し、本プログラムを題材としたポスター発表（タイトル「OB と産業界との COOP 教育の実践」）を行いました（写真 2）。他高専の産学官連携活動の実情を知り、また多くの方々と意見交換できた貴重な経験でした。

副センター長として、昨年度と今年度の本プログラムの窓口役を担当させて頂きました。学内外の調整の難しさを感じつつも、関係者皆様のご理解とご協力により無事に実施することが出来ました。この場を借りて、本プログラムに御協力を頂きました関係者の皆様に深くお礼申し上げます。



写真1 神阪氏による事前講演会の様子



写真2 発表会場の様子

平成24年度の本プログラムへの協力企業一覧（27企業、1機関）

（株）椿コンサルタント、山岡コンクリート工業（有）、千葉オイレッシュ（株）、ナブソン（株）、
（有）トレス環境システム、日伸精機（株）、豊産マシナリー（株）、ソニーイーエムシーエス（株）、
（株）写楽館、（株）長野建設、飯田パッキン工業（株）、（株）大崎コンピュータエンジニアリン
グ、シチズンセイミツ（株）、（株）荏原エリオット、（株）コムニク、（株）ティ・アイ・ディ、
JFE スチール（株）東日本製鉄所、いすゞエンジニアリング（株）、新興プランテック（株）、（株）
日鐵テクノリサーチ、（株）ヤマナカゴーキン、不二精機（株）、東邦チタニウム（株）、山田電器
工業（株）、宇部マテリアルズ（株）、（株）東京機械製作所、（株）東京音研放送サービス、千葉県
生物多様性センター（順不同）

地域連携・産学連携の記録

公開講座

平成24年度は、以下の公開講座を開催しました。

講座名	実施時期	受講対象者
陸上競技教室 ー早く走るコツとそのトレーニングー	5月26日(土) 5月27日(日)	小学生
ようこそ！香りの世界へ ※4日間受講して一つの講座	5月26日(土) 7月28日(土) 11月4日(日) 12月22日(土)	女子中高生と保護者 (2名1組)
リナックスパソコンを体験して難しい数学を解こう	6月16日(土)	中学生
柔道ってどんなもの？	7月8日(日)	小学生
青少年のためのおもしろサイエンス	7月21日(土)	小学4年～中学生
簡単なラジオ製作	7月26日(木)	小中学生
ガラスを削って絵を描こう	7月26日(木)	小学4年～中学生
夏休みこども工作教室	7月31日(火)	小学3年～6年生
磁石とコイルを使って音を聞いてみよう	8月7日(火)	小学4年～6年生
移動ロボット製作教室	8月23日(木) 8月24日(金)	小学5年～中学2年生
君にも出来るメディアデザイン ーテクノマスコットー	8月25日(土)	中学生
作って確かめる立体図形の不思議	9月22日(土)	小中学生
エクセルを使った自動計測手法	10月20日(土)	一般
電子オルガンを作ろう	10月27日(土)	小学4年～中学生
ジュニアバレーボール教室	11月17日(土)	小学3年～6年生
レゴロボット	12月1日(土)	小学生
くるくるクリスマスツリーを作ろう	12月8日(土)	小学4年～中学生
金属探知機で宝探し！！	12月15日(土)	小学校高学年以上



～公開講座「移動ロボット製作教室」の様子～

出前授業

小中学校等からの依頼を受けて、以下のような出前授業を行いました。

講座名	実施担当者	出前先
陸上指導	人文学系 坂田	木更津市立木更津第3中学校
君にもつくれる防犯センサー	情報工学科 栗本 情報工学科 白木	袖ヶ浦市平岡公民館
陸上指導	人文学系 坂田	木更津市立西清小学校
陸上指導	人文学系 坂田	木更津市立木更津第1小学校
陸上指導	人文学系 坂田	木更津市立祇園小学校
陸上指導	人文学系 坂田	木更津市立富岡小学校
講義・実験「知って得する理科の常識」	基礎学系 福地 基礎学系 嘉数 基礎学系 高谷 基礎学系 高橋	木更津市まなび支援センター
万華鏡づくり	基礎学系 嘉数 基礎学系 高橋	袖ヶ浦市立図書館
ポンポン船を作ろう！ ふるえて進むおもちゃを作ってレースしよう！ 君にもつくれる液状化装置	機械工学科 歸山 電子制御工学科 沢口 環境都市工学科 湯谷 環境都市工学科 大久保	東京ガス 木更津ショールーム
万華鏡の制作 光の世界	基礎学系 嘉数 基礎学系 高谷 基礎学系 高橋	木更津市立木更津第1中学校
夏休み子どもチャレンジ教室	基礎学系 高橋	木更津市中央公民館
「サタデースクール事業」 科学クイズ・ステンドグラス万華鏡工作等	基礎学系 嘉数 基礎学系 高橋	木更津市清見台公民館
自分の筋肉の動きを実感しよう	人文学系 清野	袖ヶ浦市立根形中学校
科学マジック 万華鏡づくり	基礎学系 嘉数 基礎学系 高橋	木更津市立富岡小学校
「SPP 理科出前講座」 万華鏡の製作 光の世界	基礎学系 嘉数 基礎学系 高橋	袖ヶ浦市立平川中学校
地域の防災について考えてみよう	環境都市工学科 鬼塚	生涯学習交流センター (君津中央公民館)
科学マジック、科学体験	基礎学系 高橋	袖ヶ浦市民会館

2012 夏休み「サイエンススクエア」

国立科学博物館で7月24日～8月19日に開催される2012夏休み「サイエンススクエア」に参加しました。2012夏休み「サイエンススクエア」は小中学生を対象にものづくりや実験を通して科学への体験を深めてもらうことを目的としているイベントです。本校は以下のテーマで参加しました。

講座名	担当学科	参加期間
金属探知機を作って宝探し!!	電気電子工学科	7月31日～8月2日
君にもつくれる光通信	情報工学科	8月10日～8月12日
おもしろ万華鏡をつくろう!	基礎学系	8月10日～8月12日



～「金属探知機」、「万華鏡」、「光通信」の様子～

木更津高専サイエンススクエア

10月20日(土)、木更津高専技術振興交流会の共催、近隣四市の教育委員会の後援のもと、本校の第一体育館で小学生を対象とした木更津高専サイエンススクエアを開催しました。「ものづくりの楽しさ」を体験してもらうため、複数のテーマを1カ所に集約した大規模なイベントで、近隣の約260名の小学生が参加しました。

テーマ名	
ものがばけるよ!ものが変わるよ!(基礎学系)	電子オルゴールを作ろう!(電子制御工学科)
ポンポン船を作ろう!(機械工学科)	君にもつくれる防犯センサー(情報工学科)
金属探知機を作って宝探し(電気電子工学科)	地震博士になろう!!(環境都市工学科)



～「ポンポン船」、「地震博士」の様子～

共同研究・受託研究ならびに奨学寄附金の受入れ状況

(単位 千円, 端数切捨)

	平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度	
	件数	金額								
共同研究	15	20,525	13	19,724	13	19,724	15	20,525	7	654
受託研究	5	11,331	1	1,180	1	1,180	5	11,331	4	12,494
奨学寄附金	18	9,409	16	13,637	16	13,637	18	9,409	21	12,476

科学研究費補助金採択状況 (直接経費のみ)

(単位 千円)

年度	基盤 C		奨励		若手(スタート アップ)		若手 B		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成 19 年度	6	4,800	7	3,620			4	6,100	17	14,520
平成 20 年度	5	5,200	2	1,160	1	1,330	4	2,000	13	9,690
平成 21 年度	3	3,800	2	770	1	1,200	3	1,600	9	7,370
平成 22 年度	4	2,500	3	1,500	1	1,140	2	1,200	10	6,340
平成 23 年度	4	3,600	4	2,100	1	1,120	3	3,300	12	10,120
平成 24 年度	5	6,500	2	1,000			1	400	8	7,900

独立行政法人 国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校 地域共同テクノセンター運営委員会
〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1
電話 0438-30-4005 FAX 0438-98-5717

2013年3月5日 発行